



めだかの学校



理事 池田 順道

この文章が巻頭言として掲載される頃は、来年度から施行が決定した「子ども・子育て支援新制度」について、どの自治体でもスムーズな移行がなされるように説明会などが開催され、徐々に全体像がはっきりとしだしているのではないのでしょうか。各保育園の皆様におかれましても、自身の職業の根幹である制度だけに様々な研修会や説明会に積極的に参加され、現保護者や見学者への確かな説明ができるように、新制度への理解を深めていることと思います。

また、新制度において質の向上を行った場合と、現状との運営費の額を試算し、どのような人件費体系とするのか、具体的にどのような質の向上を行っていくのかなど、地域の園長会などで情報交換を行いながら計画をたてているのではないのでしょうか。

その他、国の方針に則り、サービス推進費の動向如何に関わらず、幼保連携型認定こども園への移行を積極的に検討している方も当然いるのではないかと思います。

いずれにせよ、制度は大きく変わりますが、私たちが子どもたちに向ける眼差しや、子どもたちに対する思いはなんら変わることはありません。自治体と協力体制をとりながら、その地域の子どもたちのため、東京都内の子どもたちのため、日本全国の子どもたちのために、力を尽くしていかなければならないと考えています。

さて、どのような子ども子育て施設であったとしても、今までと変わらず、子どもや親、おじいちゃんやおばあちゃん、地域の方々等、多くの人々がその施設をきっかけとして関わり合いをもっていくのでしょう。そして子どもたちのそばには、時には笑い、時には涙しながら、子どもの成長を温かく見守る職員がいることも、今後変わるものではありません。

先日、当協会の永年勤続表彰式に同席させていただき、お祝いをさせていただきました。永年にわたり保育に尽力されてこられた137名の受賞者の皆様に対しまして、若輩者の私が言うのもおこがましい限りですが、人生を賭して保育にかたむけてこられた情熱に敬意を表したいと思います。

特別表彰、園長表彰、職員表彰のそれぞれ代表の先生方よりご挨拶をいただきました。どのお話も素晴らしかったのですが特に印象に残っているのは、その先生が就職したての頃、当時の園長先生に言われた「子どもたちに益を与えられないのならば、せめて害を与えるな」との教えを43年の長きにわたり常に心に保ち続けたという言葉でした。私は、この当時の園長先生の教えも味わい深いと思いましたが、何よりも、その言葉を大切に心に保ち続けた先生のまっすぐで、よどみない、実直な心に感動し、頭が下がる思いがしました。

平成27年の4月からは、新しい制度のもとで、子どもたちの育ちを見守っていくことになりました。どのような制度になろうとも、子どもたちのすぐそばに子どもを見守るたしかな目を持った職員がいられないような制度であれば、すぐにたちゆかなくなります。また、どのような施設になっても、その施設の職員は、子どもたちが自ら育つ力を信じ、子どもたちに寄り添い、育ちを見守る謙虚な気持ちを決して忘れてはいけないのでしょうか。

表彰式後の祝賀会の折り、その表彰を受けた方の保育園の現在の園長先生と席が一緒になり、その大先輩の園長先生が「我々は、めだかの学校じゃなきやだめなんだ。すずめの学校はだめだ。」と教えて下さいました。「すずめの学校」と「めだかの学校」。歌詞を思い出してみてください。私にとっては、人生の大先輩方に、たくさんのことを学ばせていただいた大変有意義な一日でした。